

四国の
「地域循環共生圏」を
創造する！

LS四国 (Local SDGs Shikoku)

ローカル エス・ディー・ジーズ しこく



四国の自然資本、豊かな自然環境を保全しながら、地域循環で活性化する四国の未来を創造することをイメージして、生物多様性折り紙を使った四国地図を使っています。

環境省中国四国地方環境事務所四国事務所
四国環境パートナーシップオフィス（四国EPO）

第五次環境基本計画の基本的方向性

目指すべき社会の姿

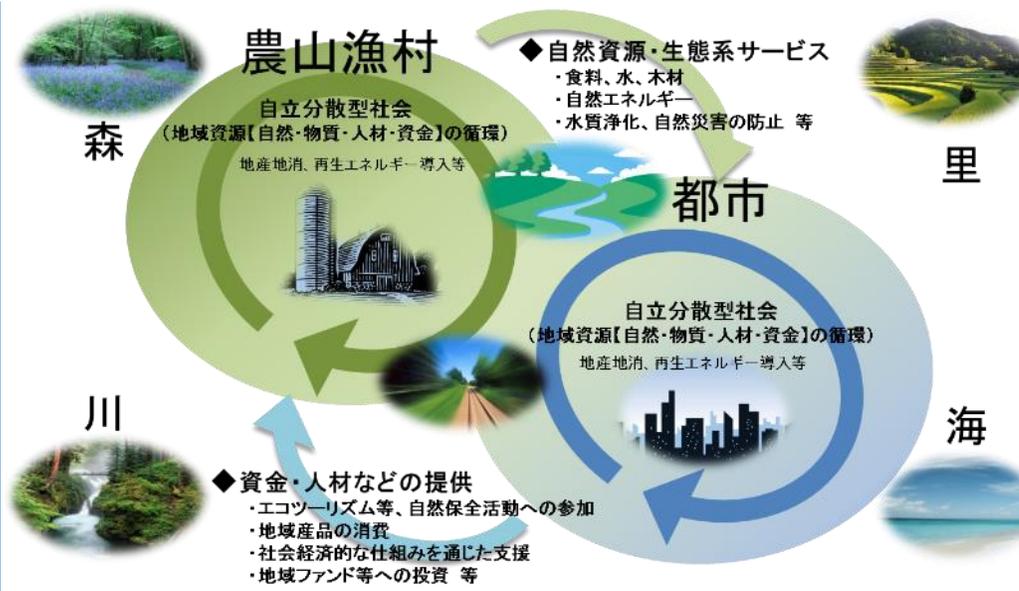
1. 「**地域循環共生圏**」の創造。
 - ※ 各地域がその特性を活かした強みを発揮
 - 地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
 - 地域の特性に応じて補完し、**支え合う**
2. 「**世界の範となる日本**」の確立。
 - ※ ① **公害を克服**してきた歴史
 - ② 優れた**環境技術**
 - ③ 「もったいない」など**循環**の精神や自然と**共生**する伝統を有する我が国だからこそできることがある。
3. これらを通じた、持続可能な循環共生型の社会（「**環境・生命文明社会**」）の実現。

- ✓あらゆる観点からイノベーションを創出
- ✓幅広いパートナーシップを充実・強化

↓

生活の質を
向上する
「新しい成長」
を目指す

地域循環共生圏



「地域循環共生圏」の概念

● **人間** =
細胞・組織が
自立・分散して機能



● **SDGs** =
No one will be left behind.
誰も取り残さない（あらゆる
個人が活躍）



資料：国連広報センター

● **地域循環共生圏** =
資源を循環利用して持続する「自立」
した地域が、相互に連携し機能する。



地域の特性、地域資源の性質に応じ、
最適な規模で地域資源が循環する。

- ▶ 狭い地域での循環に適した資源
⇒ コミュニティや自治体レベルの小さな領域で循環
- ▶ 広い地域での循環に適した資源
⇒ 河川流域、都道府県、国など地域を越えたより
広い領域での循環

地域循環共生圏（日本発の脱炭素化・SDGs構想）

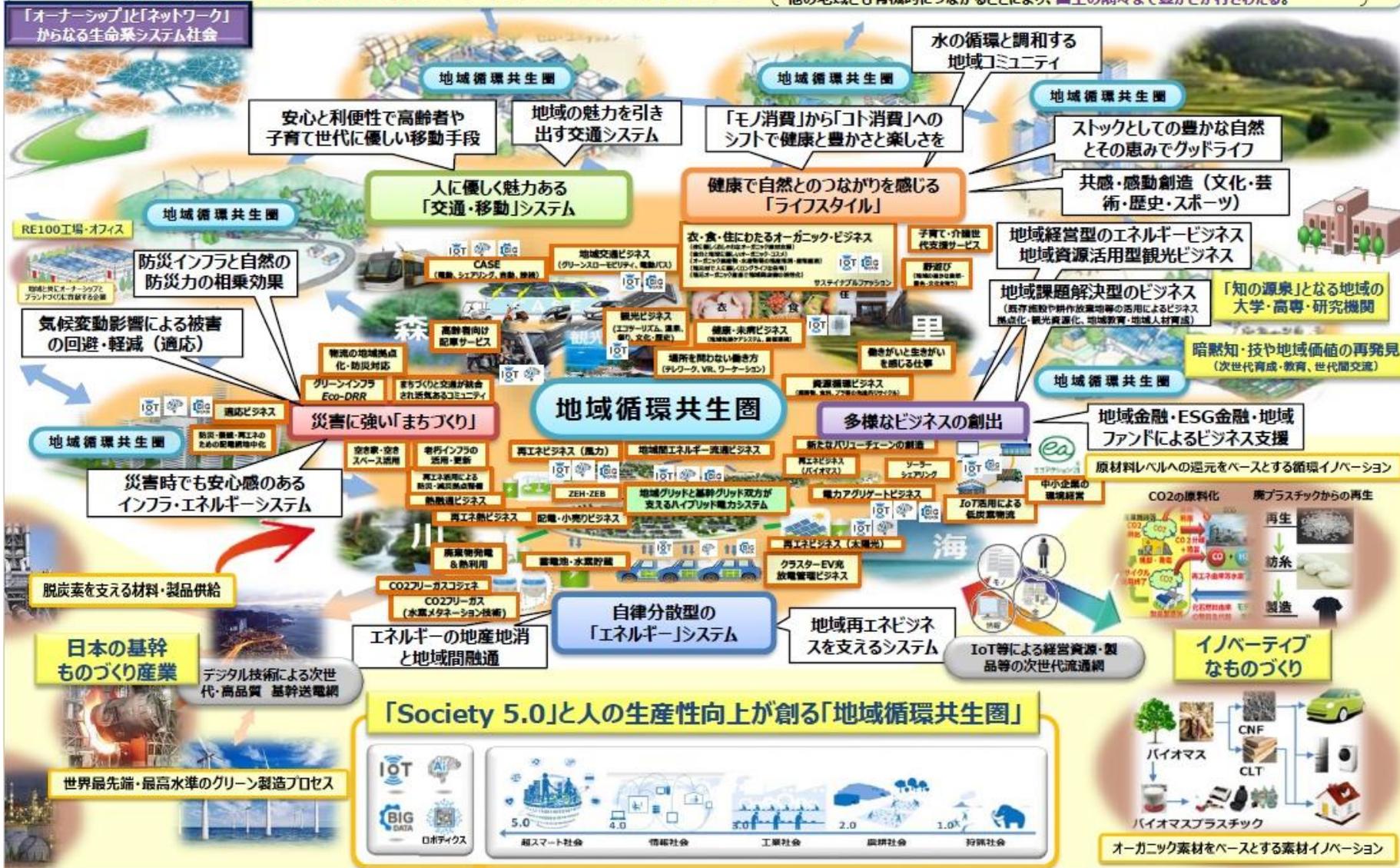
— サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から人と自然のポテンシャルを引き出す生命系システム —

vol.25

「自立分散」×「相互連携」×「循環・共生」 = 活力あふれる「地域循環共生圏」 ⇒ 「脱炭素化・SDGsの実現、そして世界へ」
 「オーナーシップ」 「ネットワーク」 「サステナブル」 「人間の安全保障、次世代・女性のエンパワーメントを基礎に」

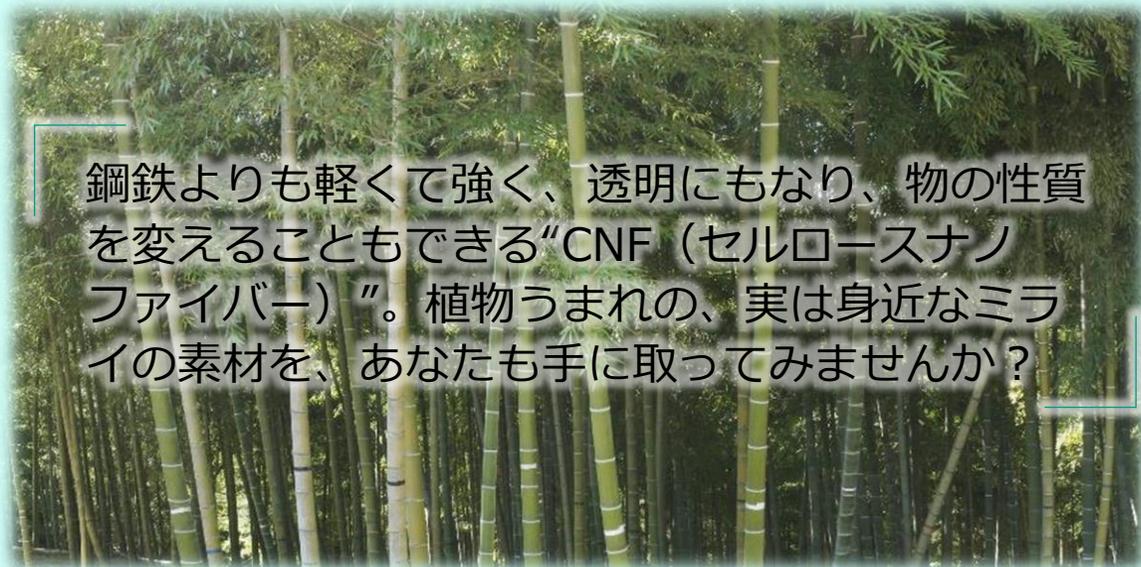
⇒ 新たな価値とビジネスで成長を牽引する地域の存立基盤

人々が健康で生き活きと暮らし幸せを実感することで、地域が自立し誇りを持ちながらも、他の地域とも有機的につながることで、国土の隅々まで豊かさが行きわたる。



セルロースナノファイバーを活用した循環型社会へ

【ミライアイズ】～夢の素材をもっと身近に CNF～



鋼鉄よりも軽くて強く、透明にもなり、物の性質を変えることもできる“CNF（セルロースナノファイバー）”。植物うまれの、実は身近なミライの素材を、あなたも手に取ってみませんか？

CNFは、ニッポン発の新素材。木や竹をはじめ、植物系であれば解体した家屋の廃材や食品廃棄物でも原材料として活用することができ、循環型社会の実現に向け世界の注目を集めています。森林国の日本では、毎年、消費する以上の木材が増え続けており、森林破壊への影響は心配ありません。鋼鉄・プラスチック・ガラスといった、様々な素材を代替できるほか、インクや食品などに添加して性質を変えることもできます。植物由来の新素材が生み出す、循環型モノづくりの新たな未来へー竹CNFを活用した省エネ性能の高い住宅建材や、市場規模の大きい家電分野等へ用途を拡げる取組を紹介します。



「地域の課題」と「気候変動問題」を同時に解決する、自治体・企業と環境省とのパートナーシップ事業を、イメージCGやインタビューを交え動画で分かりやすく紹介します。

<コンテンツ>

- プラスチックと賢く付き合う
- 夢の素材をもっと身近に～CNF～
- 脱炭素社会への扉をそっと開く～ナッジ～
- イノベーションで未来を拓く～CCUS～
- マイクログリッド構築モデル事業
- 水素サプライチェーン実証事業
- 廃棄物焼却施設の余熱等を利用した地域低炭素化モデル事業
- 木材利用（CLT）による業務用施設の断熱性能効果検証事業



ミライアイズ

検索

出典：中井統括官
2020年4月25日社
叢学会 関東定例
研究会発表資料

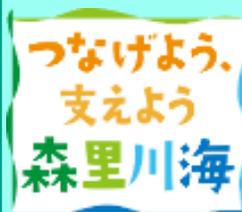
SDGsと地域循環共生圏と森里川海プロジェクト

地域循環共生圏とは“ローカルSDGs”

持続可能な循環共生型の社会



地域循環共生圏
= **地域のSDGs**
: SDGsを地域で実践するための**ビジョン**



森里川海プロジェクト
= **暮らしのSDGs**
: 一人一人、一社一社がSDGsを取り入れる**アクション**

世界のSDGs達成も私たちの地域から、暮らしから

イノベーション

- ①経済社会システム
- ②ライフスタイル
- ③技術

社会変革

パートナーシップ

国民、NPO・NGO、
企業、金融機関、地方自治体、各府省、学校…

地域ニーズ

防災減災、高齢化対応…

地域資源

地域の再エネ、豊かな自然環境…

従来の大量生産・大量消費型の経済システム

出典：中井統括官
2020年4月25日社
叢学会 関東定例
研究会発表資料

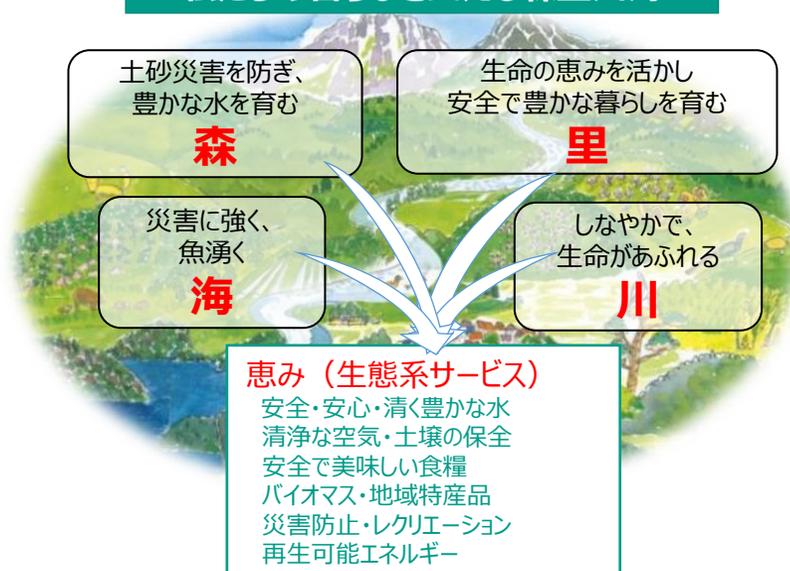
地域循環共生圏を支える「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト



森里川海プロジェクト = 生活者目線で地域循環共生圏を広げる運動
 つまり、「暮らしのSDGs」=一人一人、一社一社のライフスタイルシフトが基盤



私たちの暮らしを支える森里川海



人口減少、高齢化、過疎化、気候変動、過去の乱開発、資源の海外依存、木材利用低下など、様々な要因により、我が国の自然環境は荒廃し、国民の暮らしにも影響。

守る 支える 活用する
 自然の恵みを引き出し、
 経済性を伴ってまわる仕組みづくりと
 それを支えるライフスタイルへの変革

プロジェクトの目標

森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出します。

森里川海が本来持つ力を再生し、恵み（清浄な空気、豊かな水、食料・資材等の恵みを供給する力や自然災害へのしなやかな対応力、再生可能エネルギー等）を引き出すことで、森里川海とその恵みが循環する社会をつくります。

一人一人、一社一社が、森里川海の恵みを支える社会をつくります。

私たちの暮らしは森里川海の恵みに支えられているだけでなく、日々の暮らし方（消費行動や休暇の過ごし方など）を変えることによって、私たちが森里川海を支えることができます。一人一人がそれを意識して暮らす、いわば人と自然、地方と都市が共生する社会への変革を図ります。



←「森里川海大好き」
読本作成・普及

ライフスタイルシフトへの共感を増やすイベントを開催→



- ホームページに団体名を掲載
- シンボルマークを使用（要届出）
- 活動計画・報告をホームページに掲載

<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/>



出典：中井統括官
 2020年4月25日社
 叢学会 関東定例
 研究会発表資料



LS四国 準備段階これまでの取組①

2019年



2月（徳島県、約30名）
地域の特徴を活かした持続可能な商品開発
に向けたワークショップ



4月（四国4県）
事業開始準備：4県の協働団体との
協働体制の確立に向けた事前説明



LS四国 準備段階これまでの取組②



2019年



5～7月情報収集、ヒアリング
(四国4県20カ所)

協働団体との打ち合わせにより20カ所のヒアリング先を選定、訪問による情報収集

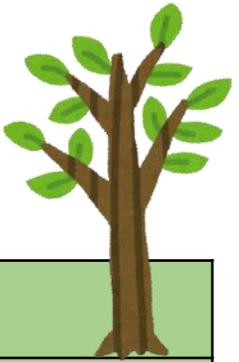


8月（香川県、約80名）

第1回四国地域ブロック会議設立準備会議
(ESG金融高松キャラバンとの連携開催)



LS四国 準備段階これまでの取組③



2019年



11月（高知県、約30名）

持続可能な商品開発のための研修

ものづくり、ことづくりに焦点をあてた関係者共有の場づくり、SDGs実施指針パブリックコメント勉強会同時開催



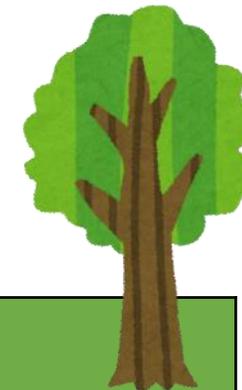
12月（愛媛県、約100名）

地域循環共生圏構築にむけた地域フォーラム

脱炭素化・SDGs構想との連関による地域循環共生圏全体構想の共有、愛媛県中小企業家同友会共催、四国内同友会の後援他、経済界との連携



LS四国 準備段階これまでの取組④



2020年

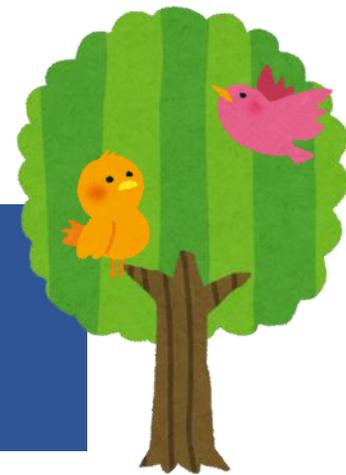


1月（徳島県、約30名）
第2回四国地域ブロック会議設立準備会議
四国財務局の広報支援
阿波銀行SDGs私募債等取組紹介



2月（愛媛県、約50名）
SDGsフェス in 西条
森里川海・流域連携ミーティング

準備段階→設立へ



本格始動！

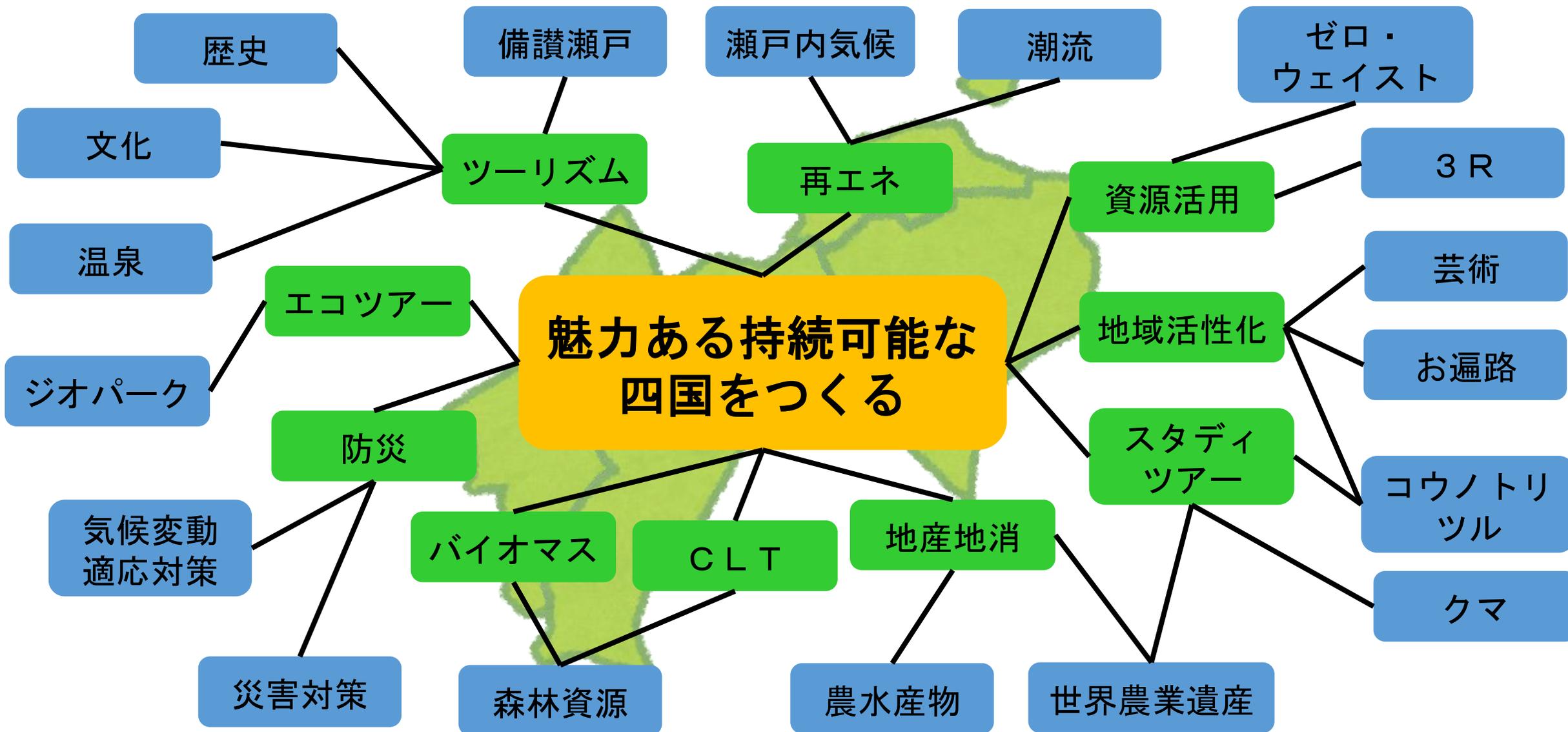


LS四国 設立趣旨

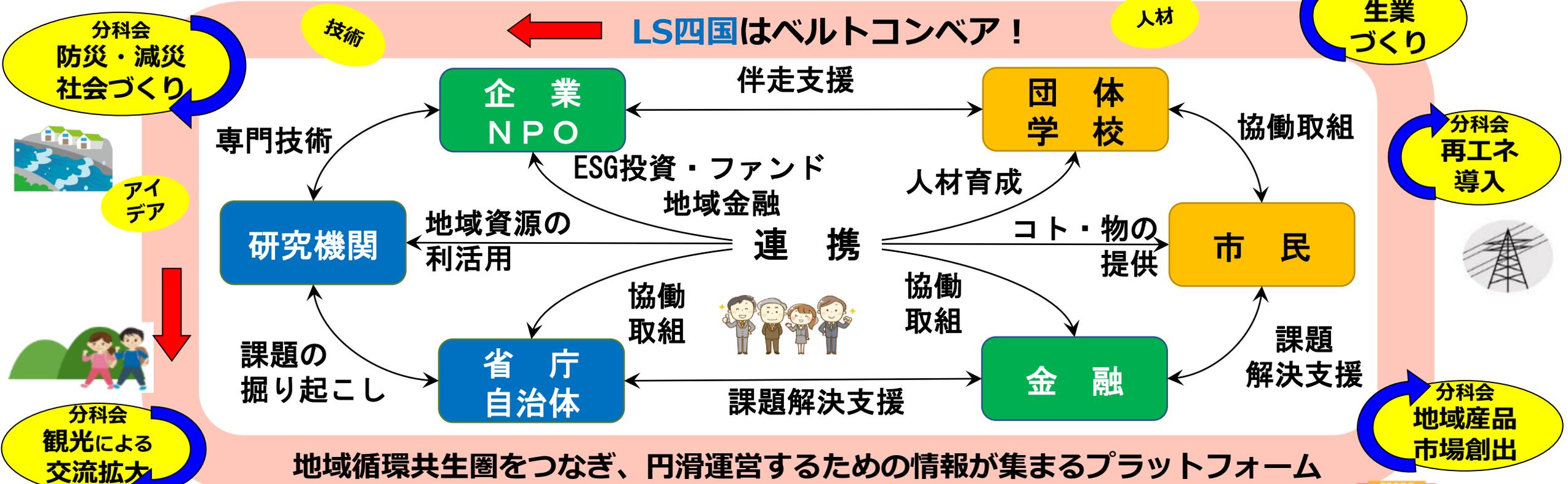
- 環境省は、環境・経済・社会の課題の同時解決と地域資源を活かし、持続的に循環させることで、農山漁村も都市も持続可能な社会を実現するための新しい概念として、**「地域循環共生圏（ローカルSDGs）」**を提唱。
- 環境省四国事務所、四国EPOでは、持続可能な四国の実現に向けて、2018年度から、四国内の先進事例の情報収集や、会議等での意見交換の場を設置。
- ローカルSDGsの達成に向けた**「魅力ある持続可能な四国をつくること」**を目的とした**「ローカルSDGs四国（LS四国）」**を立ち上げ、企業、金融機関、NPO等活動団体、有識者、行政等が密接に連携できる場づくりを行う。



LS四国 四国にある地域循環共生圏のタネ



LS四国 目指す場づくりのイメージ図



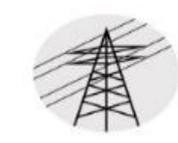
分科会
防災・減災
社会づくり



分科会
観光による
交流拡大

分科会
生業
づくり

分科会
再エネ
導入



分科会
地域産品
市場創出



地域課題
人口減少 高齢化 過疎化 雇用創出
コミュニティの消失 産業創出 ...

環境課題
脱炭素社会 (再エネ) 異常気象
災害対応 耕作放棄地 獣害 ...

課題解決

魅力ある持続可能な四国
(ローカルSDGsの実現)
環境・経済・社会の両立





LS四国 活動内容①

普及啓発・広報活動

会員内外に向けて、
LS四国の取組や関連情報の
発信を行うことで、裾野を広げる。



LS四国 普及啓発・広報活動事例

うどんまるごと循環コンソーシアム（活動拠点：香川県）

うどんをまるごと循環させる

□ 環境

捨てられるうどんを回収し、発電するとともにその残さを堆肥化。「堆肥を使って小麦をつくり、またうどんをつくる」という、地域ならではの資源循環型の取組を産学官民の連携で構築した。

□ 経済

コンソーシアムの宣伝、普及啓発により全国のメディアからの取材を受け、日本全国からの視察の受け入れを行った。当初は、ちよだ製作所内に設置した試験プラント1基で開始。現在、四国内外でプラントが採用され、うどんから始まった発電は、さまざまな食品廃棄物処理で活用されている。

□ 社会

企業、自治体、環境団体等で立ち上げたコンソーシアムは、香川県の政策提案の協議会への参画、学校への出張授業、うどんまるごと循環ツアーの開催、フードバンクへの協力等、現在も幅広い活動を行っている。



バイオガスプラント



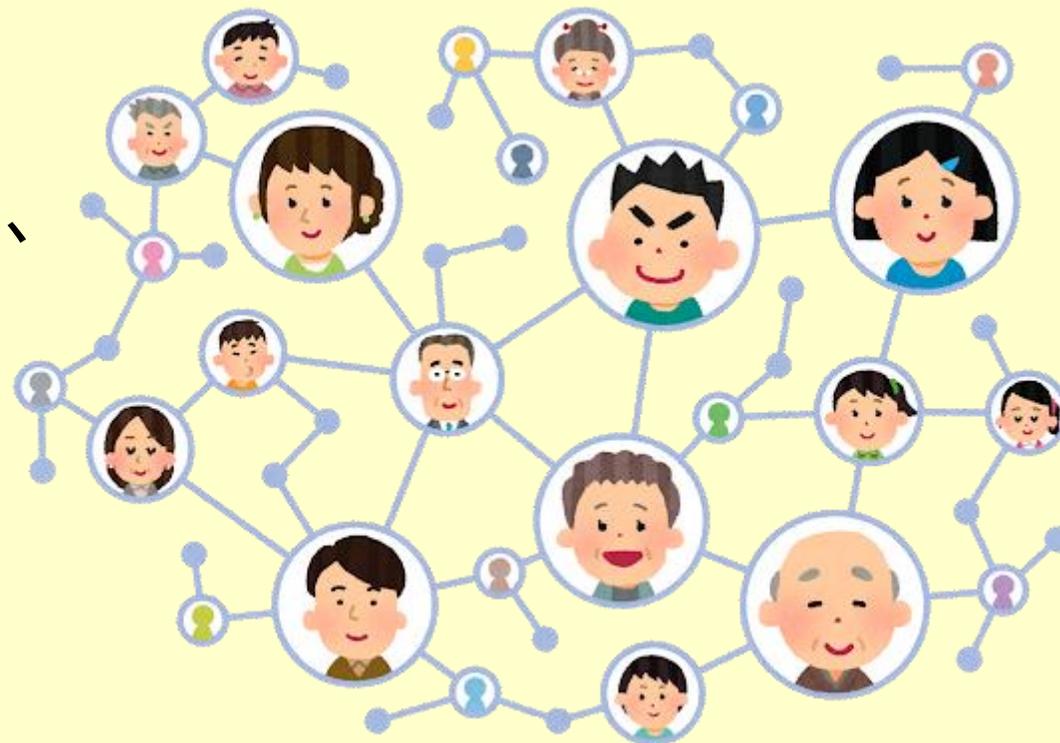
うどんまるごと循環コンソーシアム

（出展：うどんまるごと循環コンソーシアムHP）

LS四国 活動内容②

ネットワーク構築・情報交流・マッチング

地域課題の同時解決に向けて、
さまざまな分野・業種のネット
ワーク・マッチングを行うことで、
協働・協業の推進を図る。
勉強会・交流会等の開催。



LS四国 ネットワーク構築・情報交流・マッチング事例

コウノトリ定着推進連絡協議会（活動地域：徳島県東部）

コウノトリの野生復帰で地域をパワーアップ

□ 環境 コウノトリの生息環境調査と普及啓発活動

コウノトリの餌生物調査や、ビオトープ観察会、エコツアー等を実施し、餌資源の保全や普及啓発活動を行う。

□ 経済 「コウノトリれんこん」のブランド化および関連商品の開発、販売

鳴門市が、環境保全型農業の推進を図ると共に、コウノトリ定着を活かした農作物のブランド化により、地域経済の振興を図ることを目的とした認証制度を立ち上げ（平成29年8月）。コウノトリおもてなしレンコンを空輸し、首都圏で販売することで、認知度を上げる取組も実施。

□ 社会 ローカルビジネスづくり

協議会の会員が中心となり、NPO法人とくしまコウノトリ基金を設立（令和元年8月）。NPOの会員と地域が連携した環境ローカルビジネスづくりに向けたしくみづくり、地域資源をパッケージ化したエコツアーのビジネスモデルづくり等に取り組む。





LS四国 活動内容③

資金調達、金融連携・資源連結支援

①の達成に必要な資金や、
地域資源等の連結を支援し、
取組を支える基盤強化を行う。
(ESG投資・融資の促進)

※資源：人材、技術、取組等



LS四国 資金調達、金融連携・資源連結支援事例

島産業株式会社（活動拠点：香川県観音寺市）

生ごみ減量推進の取組

□ 環境 生ごみ減量と食品ロス削減

生ごみ減量への関心を高めるために、環境省が推進するCOOL CHOICEや、食品ロスと紐づけた商品情報の発信。食品ロスの専門家とも連携し食品廃棄物削減の視点で発信。

□ 経済 新規取引先の拡大、デザイン賞をW受賞

発信方法を変えたことで、大手家電量販店や大手テレビ通販の目に留まり、取り扱い開始、営業成果につながった。世界3大デザイン賞の2つをW受賞。

□ 社会 視点の広がり

商品セールスの視点に環境配慮やSDGsが盛り込まれることにより、商品情報の発信力が高まった。コンパクト化や乾燥によるごみの減量化などのコンセプトが、環境意識の高い層だけでなく、幅広く消費者へPRができるようになった（新たなライフスタイルの提案）。全国の約6割の自治体が取組み購入助成金制度対象商品として認知も進む。



生ごみ減量乾燥機
「パリパリキューブ」
（出展：島産業株式会社HP）

LS四国 組織・運営体制（案）①

●設立

令和2年度中を予定

●会員

本会の趣旨に賛同し、本規約を遵守し活動を積極的に行う団体及び個人

●会員登録のメリット

- ①協業・協働に向けたパートナーの発掘・マッチング
- ②メルマガ配信、HPへの情報掲載
- ③勉強会・交流会等への参加
- ④プロジェクト提案及び分科会への参加
- ⑤会員名簿への記載・公表（希望者のみ）

●会費

新年度から創設検討中

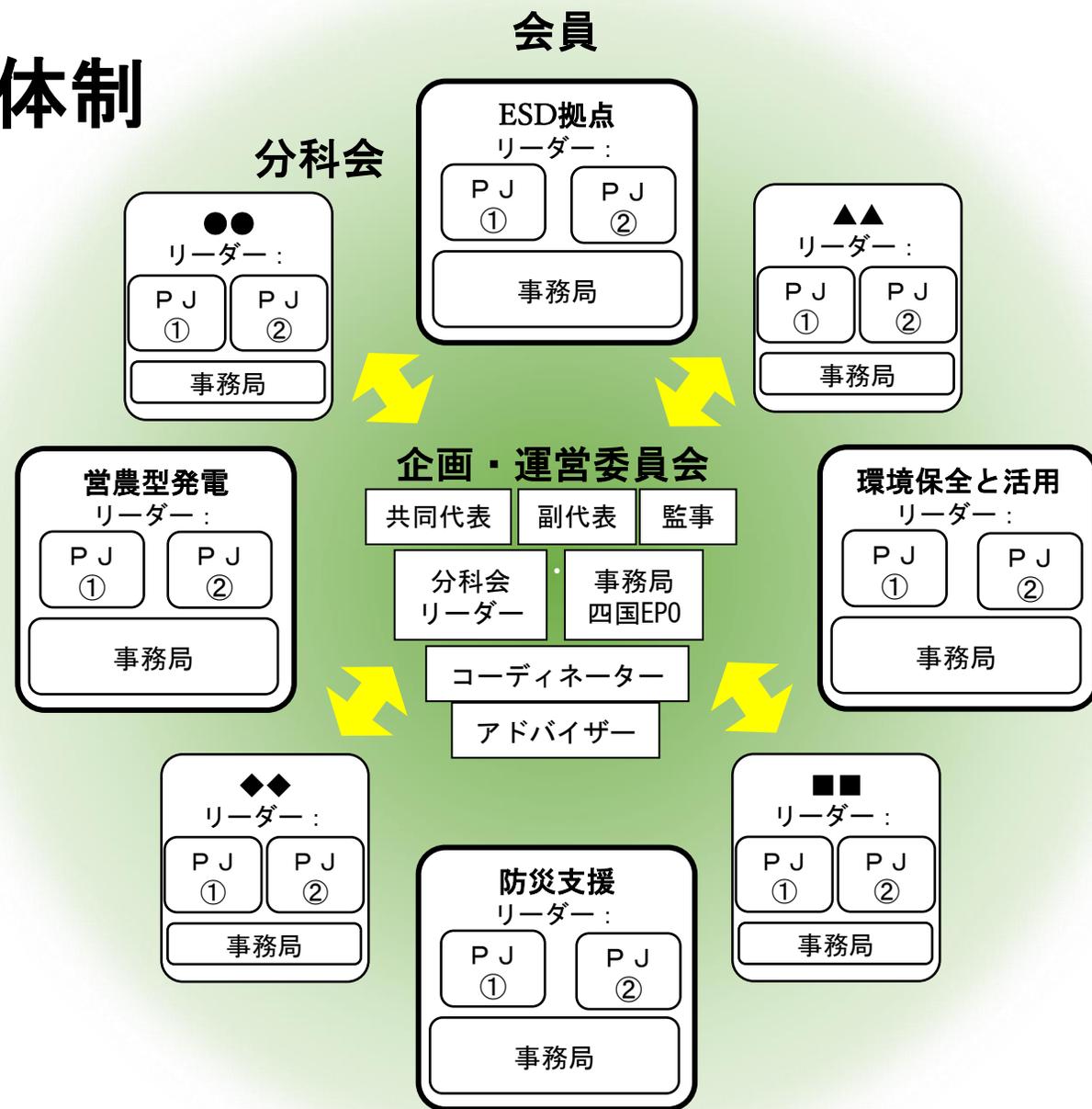
- ・ 無料会員（メルマガ配信、セミナー参加）
- ・ 有料会員（分科会等取組実施）

LS四国 組織・運営体制 (案) ②

●分科会

- 分科会活動を通して、持続可能な四国の実現を目指す。
- 分科会の中で、テーマに沿ったさまざまなアイデアを、プロジェクト（以下PJ）として実施する。
- 有料会員は、分科会に参加できる。
- 会員からの提案があった場合は、企画・運営委員会で審査、承認する。
- 分科会の運営は、各分科会で規定を定め、運用する。
- 企画・運営委員会は、分科会運営を支援する。

●運営体制





LS四国 分科会のイメージ～地域ESD拠点～

地域ESD拠点(四国)

学校や社会教育の現場では、さまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。四国内では、多様な主体が連携を深められるよう地域ESD拠点を推進しています。四国ESDセンターや地域ESD拠点と連携しながら、各地域・各分野で取り組まれる地域循環共生圏を盛り上げていきましょう。

四国の登録数: 11件 / 全国の登録数: 127件 (2020.08.31 現在) ※番号は登録順

ESD (Education for Sustainable Development= 持続可能な開発のための教育) は、持続可能な社会を実現するために自ら考え、行動できる人材を育成するための教育のことです

①新居浜市教育委員会

四国地方ESD活動支援センターと連携して、市内のユネスコスクール同士のESD活動のノウハウや活動情報を共有し、学び合いの促進や情報発信を通して、四国内でのESDを推進するために新居浜市教育委員会としてできる範囲の支援を行う。

(愛媛県新居浜市一宮町一丁目5-1 電話 0897-65-1301)

③IKEUCHI ORGANIC 株式会社

誰一人として犠牲にしないものづくりを日暮らし、タオル作りを中心とした企業活動を展開している。このような企業活動に加え、蓄積した経験や成果をオープンハウスや研修会開催などで広報することを通して、SDGsの達成に寄与。今後は、学校教育、社会教育の分野で、自治体 などの連携や支援も検討している。

(愛媛県今治市西条甲 762 電話 0898-31-2255)

⑦株式会社平野 平野薬局

新しくオープンした「平野みらい薬局」を拠点に、環境教育・自然体験プログラムや各ワークショップを提供している。依頼があれば出張実施も可能。また、EA (エコアクション) 21取得企業であり、社内に 環境委員会と環境経営事業部がある。

今後は、これまでの経験とノウハウを社外に広く伝え、中小企業家同友会と連携し、ESDを広めることを目指す。

(愛媛県今治市北宝来町二丁目 2-22 電話 0898-32-0255)

⑧NPO 法人 えひめグローバルネットワーク

「持続可能な未来のため、地球規模で考え、地域で行動し、自ら変わっていくこと」をモットーとして、(1) 学び (ESD) (2) 行動 (国際協力・フェアトレード・環境 保全活動の実践) (3) つながり (ネットワーク・パートナーシップの構築) を育む 事業を行っている。外務省 NGO 相談委員等により、さまざまな NGO/NPO と連携し、ESD/SDGs、国際協力に関する講演や市民活動のサポートを行う。また、特に「アフリカ・モザンビーク支援」では、愛媛ならではの取組をユネスコスクールとともに グローカルに展開中!

(愛媛県松山市東雲町 5-6 電話 089-993-6271)

⑤株式会社 土佐山田ショッピングセンター

「つくる人」「つかう人」「売る人」の「三堂主義」の下、「食」「農」「学び」「地域」の融合により、お店における販売活動を通じて地産地消や安心・安全な食の提案等を行うとともに、学ぶ場を提供することで企業としてESDの拠点としての取組を進めている。

また、地域の学校の食育の取組に生産者の協力も得て、児童生徒が地域の食に関する文化を通して地域の魅力を学び、自ら考え行動できる体験プログラムを実施している。

(高知県高岡市土佐山田町安野 222 電話 0887-52-2131)

⑥室戸ジオパーク推進協議会

地域住民にとって持続可能な発展のために、重要な遺産の発見、保全、活用に取り組んでいる。地域の魅力を学習や観光に活かすため、市民勉強会の企画やツアー化に向けたガイド養成等を行い、これまでに、室戸岬の海岸遊歩道を歩くツアー、灯台とおきを巡るツアー、歴史の町並みを歩くツアー、杉の日本と出会うツアー、遠洋漁業で栄えた通町を歩くツアー、台地で農業を体験するツアーなどがスタートしている。

(高知県室戸市室戸岬町 1810-2 電話 0887-22-5161)

⑨うどんまるごと循環プロジェクト

バイオガス・プラント施設の見学受け入れ(もよぎ製作所)、協働でのエコツアー開催(プラント見学、うどん手作り体験、バイオガス生成実験等)、小学校等での出前教室、見学受け入れ、バイオガス生成実験器具等の貸し出し、プロジェクトイベント等の共同企画実施、運営等を行うことでESDの推進を支援している。

(香川県高松市番町西庄 941-5 電話 080-3924-7023)

②高松ユネスコ協会

ユネスコスクール登録推進の一環として県下の各学校を推薦し、香川県内3校が認可登録されている。登録校にはユネスコ運動全国大会、四国ブロック研究会などで活動成果を発表し取組を共有している。その他、世界遺産や未来遺産運動などの文化財保護につながる活動、寺子屋サロンや国際交流活動などを通じた教育分野における活動、また自然遺産の普及啓発や芸術活動などの取組により、平和の達成に向け、国際的な視野を持って身近な地域活動を進めている。

(香川県高松市高町 10-5 電話 090-1323-3422)

④株式会社 ハレルヤ

- ・品質や生育方法にこだわった地元産産物を菓子原料として使用
- ・規格外産産物を利用したスイーツの開発、地域産産物の発掘
- ・地域農業や自治体への積極的支援
- ・女性だけでなく社員ひとりひとりのワークライフバランスに合わせ、日祝勤務の配慮や新部署の設立等、活躍しやすい環境づくり
- ・お菓子の製造で利用した水を「活性汚泥法」により浄化し、徳島や瀬戸内の海を守り環境を次世代に引き継ぐ
- ・工場見学通路に、ESD や SDGs の視点を取り入れたパネル掲示を行い、自社の取組紹介とESD・SDGsを説明
- ・企画書や提案書等の文書作成の際 SDGs のロゴを掲載し、社員意識を向上させ、外部へ取組を発信

(徳島県板野郡船越町徳島市北川内四ノ楯 30 電話 088-699-7611)

⑩一般社団法人そらの郷

日本の原風景、世界農業遺産認定「尾瀬斜地農耕システム」のライフスタイルを背景に、SDGs達成をテーマとした、持続可能な観光地づくりを推進。

日本版DMOとして、徳島県西部「L河津-剣山-吉野川観光圏」の地域経営、観光戦略などをマネジメントしている。社となる教育関係の事業では、持続可能な社会づくりの担い手として必要な富貴能力等を育成することを目的とする。

(徳島県三好市池田町シマ 995-1 電話 0883-76-0713)

①バンゲアフィールド

SDGs 未来都市に選定されている上勝町を舞台にサスティナブルツーリズムを展開。グランピングやコテージなどの宿泊施設、オートキャンプサイト、BBQ サイトを運営しながら、小学生向けにゼロから作ってゼロで過ごすことをコンセプトにした「ゼロキャンプ」の実施やSDGsや地方創生をテーマに上勝町で研修を行う企業への研修実施を行っている。また、ESD に基づいた教育旅行プログラム「KSA (KAMIKATSU Sustainable Academy)」を開発し、学校団体を中心に修学旅行の受け入れなども行っている。

(徳島県勝浦郡上勝町大字福原字川北 4 電話 0885-46-0371)



LS四国 分科会のイメージ～地域ESD拠点～

●取組内容

教育を基軸とした、取組内容の検討とものづくりネットワーク
 年1回、連絡会を開催
 メーリングリスト運用による最新情報の発信

●運営体制

リーダー：近森センター長 事務局：四国ESDセンター



(出展：高松ユネスコ協会FB)
 高松ユネスコ協会
 国際交流活動、文化財
 保護活動等の実施



室戸ジオパーク
 推進協議会
 地域の魅力を活かした
 ツアーや教育の実施



(出展：あかがねミュージアムHP)

新居浜市美術館
 にはまSDGsアート
 フェスティバルの開催



新居浜市教育委員会
 新居浜版SDGsの発行
 ユネスコスクール推進



(出展：平野薬局HP)

平野薬局
 SDGsやESDの視点を取り
 入れた薬局経営



ハレルヤスイーツ
 キッチン
 SDGsやESDの視点を取り
 入れた企業活動の発信



土佐山田ショッピング
 センター
 SDGsやESDの視点を取り
 入れた企業活動の発信



IKEUCHI ORGANIC×
 えひめグローバル
 ネットワーク
 タオルを通したSDGs、
 ESDの発信



LS四国 立ち上げに向けた今年度の予定（案）

時 期	内 容
9月23日	情報交換会の開催
11月（予定）	ローカルSDGs四国設立原案の策定及び協議会の開催（メイン会場：徳島）
12月（予定）	ローカルSDGs四国設立原案の打ち合わせ会議の開催（メイン会場：高知）
1月（予定）	【ローカルSDGs四国立ち上げ】 ローカルSDGs四国キックオフの開催（メイン会場：香川）
2月（予定）	ローカルSDGs四国の発展に向けた会議の開催（メイン会場：愛媛）



LS四国 来年度以降の活動予定（案）

企画	内容
フォーラムの開催	LS四国や分科会活動の発信
勉強会・交流会の開催	他事例や助成金情報等の勉強会、交流会等の開催
分科会活動支援	分科会新設の告知、分科会広報、会員への紹介・マッチング
メルマガ・SNSでの情報発信	助成金情報等活動支援に関する情報、分科会活動報告、その他SDGs関連情報の発信
ホームページの運用	イベント等告知、LS四国・分科会活動報告、マッチングアプリでのマッチングの促進
年次会合	活動報告、収支報告

※太文字の内容を、2021年度実施予定